

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
<b>Q 建築物の環境品質</b>									<b>2.5</b>
<b>Q1 室内環境</b>					<b>0.40</b>		-		<b>2.4</b>
<b>1 音環境</b>				<b>2.6</b>	0.15	-	-		<b>2.6</b>
1.1 室内騒音レベル				<b>3.0</b>	0.40	-	-		
1.2 遮音				<b>3.0</b>	0.40	-	-		
1 開口部遮音性能				3.0	1.00	-	-		
2 界壁遮音性能				-	-	-	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-	-	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	-	-		
1.3 吸音				<b>1.0</b>	0.20	-	-		
<b>2 温熱環境</b>				<b>1.5</b>	0.35	-	-		<b>1.5</b>
2.1 室温制御				<b>2.1</b>	0.50	-	-		
1 室温				2.0	0.50	-	-		
2 外皮性能				1.0	0.17	-	-		
3 ゾーン別制御性				3.0	0.33	-	-		
2.2 湿度制御				<b>1.0</b>	0.20	-	-		
2.3 空調方式				1.0	0.30	-	-		
<b>3 光・視環境</b>				<b>2.0</b>	0.25	-	-		<b>2.0</b>
3.1 昼光利用				<b>3.0</b>	0.50	-	-		
1 昼光率				-	-	-	-		
2 方位別開口				-	-	-	-		
3 昼光利用設備				3.0	1.00	-	-		
3.2 グレア対策				-	-	-	-		
1 昼光制御				-	-	-	-		
3.3 照度				-	-	-	-		
3.4 照明制御				<b>1.0</b>	0.50	-	-		
<b>4 空気質環境</b>				<b>4.0</b>	0.25	-	-		<b>4.0</b>
4.1 発生源対策				<b>4.0</b>	0.50	-	-		
1 化学汚染物質		建築材料は、JIS・JAS規格のF☆☆☆☆をほぼ全面的に採用		4.0	1.00	-	-		
4.2 換気				<b>3.5</b>	0.30	-	-		
1 換気量		換気量は基準の1.2倍以上を確保		4.0	0.50	-	-		
2 自然換気性能				-	-	-	-		
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.50	-	-		
4.3 運用管理				<b>5.0</b>	0.20	-	-		
1 CO <sub>2</sub> の監視				-	-	-	-		
2 喫煙の制御		館内規則により、全館禁煙		5.0	1.00	-	-		
<b>Q2 サービス性能</b>				-	<b>0.30</b>	-	-		<b>2.9</b>
<b>1 機能性</b>				<b>2.5</b>	0.40	-	-		<b>2.5</b>
1.1 機能性・使いやすさ				<b>3.0</b>	0.40	-	-		
1 広さ・収納性				-	-	-	-		
2 高度情報通信設備対応				-	-	-	-		
3 バリアフリー計画				3.0	1.00	-	-		
1.2 心理性・快適性				<b>1.3</b>	0.30	-	-		
1 広さ感・景観				1.0	0.33	-	-		
2 リフレッシュスペース				2.0	0.33	-	-		
3 内装計画				1.0	0.33	-	-		
1.3 維持管理				<b>3.0</b>	0.30	-	-		
1 維持管理に配慮した設計		防汚性の高い内装材を採用		4.0	0.50	-	-		
2 維持管理用機能の確保				2.0	0.50	-	-		
<b>2 耐用性・信頼性</b>				<b>3.0</b>	0.30	-	-		<b>3.0</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振				<b>3.0</b>	0.50	-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80	-	-		
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数				<b>3.4</b>	0.30	-	-		
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.22	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				3.0	0.22	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				-	-	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.11	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給水SGP(D)、雑排水VP(B)、汚水排水VP(B)		5.0	0.22	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.22	-	-		
2.4 信頼性				<b>2.8</b>	0.20	-	-		
1 空調・換気設備				3.0	0.20	-	-		
2 給排水・衛生設備				2.0	0.20	-	-		
3 電気設備				3.0	0.20	-	-		
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20	-	-		
5 通信・情報設備				3.0	0.20	-	-		

<b>3</b>	<b>対応性・更新性</b>		<b>3.5</b>	0.30	-	-	<b>3.5</b>
	<b>3.1 空間のゆとり</b>		<b>4.6</b>	0.30	-	-	
	1 階高のゆとり	階高3.9m以上を確保	5.0	0.60	-	-	
	2 空間の形状・自由さ	空間の形状自由さに配慮	4.0	0.40	-	-	
	<b>3.2 荷重のゆとり</b>	-	<b>3.0</b>	0.30	-	-	
	<b>3.3 設備の更新性</b>		<b>3.2</b>	0.40	-	-	
	1 空調配管の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
	2 給排水管の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
	3 電気配線の更新性	-	3.0	0.10	-	-	
	4 通信配線の更新性	配管配線方式を採用	5.0	0.10	-	-	
	5 設備機器の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
	6 バックアップスペースの確保	-	3.0	0.20	-	-	
<b>Q3</b>	<b>室外環境(敷地内)</b>		-	<b>0.30</b>	-	-	<b>2.2</b>
<b>1</b>	<b>生物環境の保全と創出</b>	-	<b>1.0</b>	0.30	-	-	<b>1.0</b>
<b>2</b>	<b>まちなみ・景観への配慮</b>	-	<b>3.0</b>	0.40	-	-	<b>3.0</b>
<b>3</b>	<b>地域性・アメニティへの配慮</b>		<b>2.5</b>	0.30	-	-	<b>2.5</b>
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上	-	3.0	0.50	-	-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上	-	2.0	0.50	-	-	
<b>LR</b>	<b>建築物の環境負荷低減性</b>		-	-	-	-	<b>2.9</b>
<b>LR1</b>	<b>エネルギー</b>		-	<b>0.40</b>	-	-	<b>2.6</b>
<b>1</b>	<b>建物外皮の熱負荷抑制</b>	-	<b>1.0</b>	0.20	-	-	<b>1.0</b>
<b>2</b>	<b>自然エネルギー利用</b>	-	<b>3.0</b>	0.10	-	-	<b>3.0</b>
<b>3</b>	<b>設備システムの高効率化</b>	LED照明を採用	<b>3.1</b>	0.50	-	-	<b>3.1</b>
	集合住宅以外の評価		3.1	1.00	-	-	
	集合住宅の評価		-	-	-	-	
<b>4</b>	<b>効率的運用</b>		<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
	集合住宅以外の評価		3.0	1.00	-	-	
	4.1 モニタリング	-	3.0	0.50	-	-	
	4.2 運用管理体制	-	3.0	0.50	-	-	
	集合住宅の評価		-	-	-	-	
	4.1 モニタリング	-	3.0	-	-	-	
	4.2 運用管理体制	-	3.0	-	-	-	
<b>LR2</b>	<b>資源・マテリアル</b>		-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.0</b>
<b>1</b>	<b>水資源保護</b>		<b>3.4</b>	0.20	-	-	<b>3.4</b>
	1.1 節水	節水コマに加え、省水型便器を採用	4.0	0.40	-	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	
	1 雨水利用システム導入の有無	-	3.0	0.70	-	-	
	2 雑排水等利用システム導入の有無	-	3.0	0.30	-	-	
<b>2</b>	<b>非再生性資源の使用量削減</b>		<b>2.7</b>	0.60	-	-	<b>2.7</b>
	2.1 材料使用量の削減	-	3.0	0.11	-	-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用	-	3.0	0.22	-	-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.22	-	-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	-	1.0	0.22	-	-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材	-	-	-	-	-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	LGSを採用することにより、躯体と仕上材が容易に分別可能となっている	4.0	0.22	-	-	
<b>3</b>	<b>汚染物質含有材料の使用回避</b>		<b>3.7</b>	0.20	-	-	<b>3.7</b>
	3.1 有害物質を含まない材料の使用	-	3.0	0.30	-	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避		<b>4.0</b>	0.70	-	-	
	1 消火剤	-	-	-	-	-	
	2 発泡剤(断熱材等)	ODP=0、GWP=1以下の発泡剤を用いた断熱材を使用している。	5.0	0.50	-	-	
	3 冷媒	-	3.0	0.50	-	-	
<b>LR3</b>	<b>敷地外環境</b>		-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.3</b>
<b>1</b>	<b>地球温暖化への配慮</b>	ライフサイクルCO2排出率73%	<b>4.0</b>	0.33	-	-	<b>4.0</b>
<b>2</b>	<b>地域環境への配慮</b>		<b>2.9</b>	0.33	-	-	<b>2.9</b>
	2.1 大気汚染防止	燃焼機器を使用していない	5.0	0.25	-	-	
	2.2 温熱環境悪化の改善	-	2.0	0.50	-	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制		<b>2.7</b>	0.25	-	-	
	1 雨水排水負荷低減	-	3.0	0.25	-	-	
	2 汚水処理負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	
	3 交通負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	
	4 廃棄物処理負荷抑制	-	2.0	0.25	-	-	
<b>3</b>	<b>周辺環境への配慮</b>		<b>3.1</b>	0.33	-	-	<b>3.1</b>
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止		<b>3.0</b>	0.40	-	-	
	1 騒音	-	3.0	1.00	-	-	
	2 振動	-	-	-	-	-	
	3 悪臭	-	-	-	-	-	
	3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制		<b>3.0</b>	0.40	-	-	
	1 風害の抑制	-	3.0	0.70	-	-	
	2 砂塵の抑制	-	-	-	-	-	
	3 日照阻害の抑制	-	3.0	0.30	-	-	
	3.3 光害の抑制		<b>3.7</b>	0.20	-	-	
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害に配慮	4.0	0.70	-	-	
	2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-	3.0	0.30	-	-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
<b>Q2 サービス性能</b>															
1.2.3 内装計画	1.0	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	6.0	-	○	○	-	-	○	○	-	○	-	○	-	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	○	-	○	-
2.4.1 空調・換気設備	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	1.0	1.0	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	2.0	1.0	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	2.0	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>															
1 生物資源の保全と創出	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	3.0	-	2.0	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	2.0	-	-	-	1.0	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	4.0	-	-	-	-	-	-	-	-	2.0	2.0	-	-	-	-
<b>LR1 エネルギー</b>															
2 自然エネルギー利用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>LR2 資源・マテリアル</b>															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	2.0	-	-	-	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	1.0	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>LR3 敷地外環境</b>															
2.2 温熱環境悪化の改善	3.0	-	1.0	-	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	2.0	-	-	-	-	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	2.0	-	-	-	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	3.0	-	1.0	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

主な指標	
<b>Q1 室内環境</b>	
2.1.3 外皮性能	窓システムSC - 窓の日射熱取得率(η) - U値(W/m2K) 窓システム - 屋根 - 外壁 - 床 - 住戸部分 窓システムU値 - 外皮UA値 - ηAC - ηAH -
3.1.1 昼光率	昼光率 -
4.2.2 自然換気性能	自然換気有効開口面積率 -
<b>Q2 サービス性能</b>	
1.1.1 広さ・収納性	執務スペース - /人 病床 - /床 シングル - ツイン -
1.1.2 高度情報通信設備対応	コンセント容量 - VA/m <sup>2</sup>
1.2.1 広さ感・景観	天井高 - m
1.2.2 リフレッシュスペース	リフレッシュスペース - レストスペース -
2.2.1 躯体材料の耐用年数	想定耐用年数 - 年
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	想定必要間隔 - 年
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	想定必要間隔 - 年
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔	想定必要間隔 - 年
3.1.1 階高のゆとり	階高 4.34 m
3.1.2 空間の形状・自由さ	壁長さ比率 23.0%
3.2 荷重のゆとり	床荷重 - N/m <sup>2</sup>
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>	
1 生物資源の保全と創出	外構緑化指数 - 建物緑化指数 -
3.2 敷地内温熱環境の向上	空地率 - 水平投影面積率 - 地表面対策面積率 - 舗装面積率 -
<b>LR1 エネルギー</b>	
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI/BPI <sub>m</sub> 1.07 断熱等性能等級 対象外 相当
2 自然エネルギー利用	自然エネルギー直接利用量 0 MJ/年m <sup>2</sup> 採光を満たす教室数 - 採光を満たす住戸数 - 通風を満たす教室数 - 通風を満たす住戸数 - 太陽光 - 太陽熱等 - 蓄電池 -
3 設備システムの高効率化 非住宅部分 集合住宅の評価	BEI/BEI <sub>m</sub> 再エネ有 0.67 無 0.67 オフサイト再エネ有 - - 一次エネ削減率 再エネ有 無 - -
<b>LR2 資源・マテリアル</b>	
1.2.1 雨水利用システム導入の有無	雨水利用率 -
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	特定調達品目 - エコマーク商品 - 自治体指定の特定品目等 -
2.5 持続可能な森林から産出された木材	使用比率 -
3.2.1 消火剤	オゾン層破壊係数(ODP) - 地球温暖化係数(GWP) -
3.2.2 発泡剤(断熱材等)	オゾン層破壊係数(ODP) 0 地球温暖化係数(GWP) 1
3.2.3 冷媒	オゾン層破壊係数(ODP) - 地球温暖化係数(GWP) -
<b>LR3 敷地外環境</b>	
2.2 温熱環境悪化の改善	見付面積比 - 隣棟間隔指標R <sub>w</sub> - 地表面対策面積率 - 屋根面対策面積率 - 外壁面対策面積率 - 見付面積S <sub>b</sub> - 卓越風向と直交する最大敷地幅W <sub>s</sub> - m 基準高さH <sub>b</sub> - m 緑地 m <sup>2</sup> 水面 m <sup>2</sup> 保水性対策面 m <sup>2</sup> 高反射対策面 m <sup>2</sup> 再帰性反射対策面 m <sup>2</sup>